

## 第3章 分かち書き

### その1 自立語と付属語

#### 1 基本的な分かち書き

##### 1. p51 1. 自立語 2. 付属語

次の文の中の「そうだ」について質問です。

女性たちがよくどんな目にあっているかを考えればなおさらそうだ。台所とリビングをあわただしく行き来して・・・

「そうだ」を助動詞と考えて前の語と続けて「ナオサラソーダ。」と、「そうだ」を副詞「そう」と考えて、「ナオサラ■ソーダ。」2つの意見が出ています。

私は、「そう」を副詞と考え「ナオサラ■ソーダ。」でいいのではないかと考えますがいかがでしょうか？

【A】

ナオサラ■ソーダ

となります。

「なおさら」は副詞ですので、独立して働きます。「なおさらだ」のような助動詞は付きますが、うしろに、伝聞や推定の助動詞は付かないと思います。

辞書によると、助動詞の「そうだ」は、動詞、形容詞、形容動詞やほとんどの助動詞に付きますが、副詞に付くという働きはありません。

##### 2. p51 1. 自立語 2. 付属語

「なんだ」について質問します。

(1) それに服は、すぐ小さくなるから、それなりに追加しないと。うーん4、5000円くらいかな、まあ、毎月じゃないけど、靴だなんだとね。

(2) それから塾なんだけど、周りが皆行っているから、

(1) 靴だなんだとね。(2) 塾なんだけど、

は、どちらも一続きでしょうか。微妙に違うような気がします。

【A】

(2)の「塾なんだけど」の「なんだ」は「なのだ」のくだけた言い方で、「な」(助動詞「だ」の連体形) + 助詞「の」 + 助動詞「だ」ですから、続けて書きます。

(1)の「靴だなんだ」は「靴だなのだ」と言い換えることはできません。「靴だ」と「何だ」(なにだ)を並べた言い方ですので、クツダ■ナンダとなります。

## 2 注意すべき分ち書き

### 1. p60 6. 「こ・そ・あ・ど」など 【備考】

「私の職場は、各個人のデスクがその人そのものを表しているかのような…」の文章における「その人そのものを」の切れ続きについて、「その■ひと■そのものを」とすべきか、または、「そのひと■そのものを」かで意見が分かれました。どちらにしても適切な説明の仕方が思いつきません。

【A】

ソノ■ヒト■ソノモノ

となります。

「その人」を一続きに書くのは、語例集にある「そこに居たのはイチロー其の人だった ソコニ■イタノワ■イチロー■ソノヒトダッタ」のように前の特定の人物を強調する場合になります。

ご質問の場合は、直前に特定の人を指しているわけではありませんので、「ソノ■ヒト」になります。

## その2 複合語

### 1 短い複合語・接頭語・接尾語など

#### 1. p63 1. 短い複合語・略語

「善悪」という言葉について、質問します。

1. お金は善悪二様のはたらきをする
2. 人間を善悪の二色に染め分けなかった。
3. 人間はある状況のもとにおかれた時、善悪の枠からはみ出すことがある。
4. 善悪とは、そんなあやふやなものだ

3. 4. は「ゼンアク」だとすんなり思いましたが、1. 2. については 善と悪の二つのことを意味しているので「ゼンアク」で良いのか、「ゼン■アク」と切るのか迷いました。

点訳フォーラムの語例には一続きの「ゼンアク」しかありません。

辞書には「ゼンアク」（名詞）と見出し語があり、これが点訳でいうところの「一語として熟している」とか「結び付きが強い短い複合語」ということであれば、1. 2. も「ゼンアク」と考えるのでしょうか。

【A】

辞書をみると「善悪」の意味は、「善と悪、善人と悪人、よしあし」ですので、善と悪を並べた、それ以上の意味はありません。ですから、1. ～4. すべて、一続きに書いてよいと思います。

複合語として用いられたときに、単に並べた以上の意味を含む場合は、マスあけが異なってきます。

「鶴亀」はおまじないに用いられるときは「ツルカメ、ツルカメ」と続けますが、「鶴亀それぞれに寿命は異なる」となれば区切って書きます。

「甲乙」は優劣といった意味を生じたときには「甲乙■つけがたい」のように続けますが、「甲■乙間の契約」のように一つずつを指す場合は区切って書きます。

「質量」も同様に物理学の用語としての「質量不変の法則」は、「シツリョー■フヘンノ■ホーソク」と書きますが、「質量共に」の場合は「シツ■リョー■トモニ」となります。

## 2. p64 2. 接頭語・接尾語など

接頭語のマスあけについて、「反革命」は一語としての意味のまとまりが強いとして続けて書きますが、これに「的」が付いた場合は連体詞的に働くものとして反■革命的と区切ってよいでしょうか。

また、旧制度下の場合も同様に旧■制度下と区切ってよいでしょうか。

【A】

反革命的は、お考えの通り、ハン■カクメイテキと書きます。

ただ、「～上（じょう）・下（か）・内・後（ご）・間」などは、複合名詞を構成するというよりも前の語に意味を添える役割が主で、接尾語的に働きますので、前の語のマスあけに影響を及ぼさず、そのまま後ろに続けて書きます。

「旧制度下」は、「旧制度」のもとでということですので、キューセイドカと一続きに書きます。「旧制度上」もキューセイドジョーとなります。

## 2 複合名詞

### 1. p66 「コラム17」

熟字訓の扱いがよく解りません。語例集には「雑魚」の読みが「ザコ」「ジャコ」とカタカナで書かれています。「ザコ」は熟字訓で訓読みということにはならないのでしょうか。「雑魚炒め」が「ジャコ■イタメ」と区切っていますので、「雑魚役人」の場合も「ザコ■ヤクニン」と区切るのでしょうか。

【A】

「雑魚」は、「新潮国語辞典」によると漢語に分類されていますので、点訳フォーラムでは漢語の扱いをしています。

常用漢字表では熟字訓の例として挙げられている語でも、「雑魚」のほか、「砂利」「数珠」「居士」なども、「新潮国語辞典」では漢語と判断していますので、点訳フ

オーラムでは漢語に分類しています。

漢語か和語かの判断は、ほとんどは漢字の音読み、訓読みで判断できますが、もともとは別の漢字表記であったものが、現在は別の当て字になったりしている語もあり、考え方によって、漢語・和語の判断に揺れがあるものもありますので、点訳フォーラムでは、「新潮国語辞典」の判断を根拠としています。

「雑魚」も「雑喉」（ざっこう）が変化した語とのことで、漢語扱いの考え方もあります。「砂利」は、他の辞典でも漢語と判断されています。このように漢語か和語かの判断が揺れている語に付いては、点訳では「新潮国語辞典」を根拠にする方法が多く採られています。

雑魚役人も「ザコ■ヤクニン」となります。

## 2. p69 2. 2拍以下の意味のまとめ 【備考】

奥、横、裏について、点字表記の語例を見てみると

ヤマガタエキ■ヨコ      カウンター■オク      ゴールウラ      ロジウラ  
となっています。

奥、横は切り、裏は、続けると考えてよいのでしょうか。

【A】

横、傍、奥など位置を表す2拍の語は、相手との位置関係を明らかにするため、原則として、前を区切って書きます。

裏は位置を表すというより、表に対する「裏」で、「路地裏」「楽屋裏」「天井裏」「ネット裏」「舞台裏」「屋根裏」など、あるイメージを伴って複合語として用いられることも多く、前の語に付けて書くことが多いと思います。

また、「前」も、時間的な「前」と区別するため続けて書く事になっています。

ロジ■オク、ロジ■ヨコ、ロジウラとなります。

## 3. p69 3. 2字以上の漢語 (1) [参考]

点字表記語例の「焙烙火矢」（ホーロク■ヒヤ）の分かち書きについて質問します。

「てびき」p69 [参考] の説明に該当すると思いますが、鉄砲鍛冶（テッポーかじ）鉄砲百合（テッポーゆり）のように2字2拍の和語と3拍以上の漢語が語例で続けてあります。複合名詞とも思える焙烙火矢も続けるように思います。が、それとはまた別の理由で区切られているのでしょうか。

【A】

「火矢」は一般の漢字2字の和語と異なる性質があると思います。

「鍛冶」「百合」など、一般に漢字2字の和語は元々あった和語に漢字を当てた熟字訓のようなケースが多いのに対して、「ひや」という和語があってそこに漢字を当てたわけではなく、「火」と「矢」というそれぞれの和語を複合させた、あるいは中国

語の「火矢」という漢字を日本で用いるにあたって、音読み「カシ」ではわかりにくいので自然と訓読みで用いるようになったように思われます。

ですから一般の漢字2字の和語のように続ける成分として扱わず、それ自体も火と矢の複合語として、区切った方がよいと考えました。

「焙烙火矢」は、上記の考えで区切って書き、鉄砲百合は「百合」が和語であることに加え、植物名ですので、続けて書きます。

#### 4. p70 3. 2字以上の漢語 (2)

「手数料率」の分かち書きについて教えてください。

点字表記の語例で「保険料率」は、「ホケンリョーリツ」と続きます。保険料＋率（2拍）という考え方でしょうか。そうであれば「手数料率」も「テスーリョーリツ」と続けて書いてよいでしょうか。

【A】

保険料率も手数料率も、語の成り立ちは、保険＋料＋率、手数＋料＋率となります。このとき後ろの「料＋率」が、自立した意味のまとまりかどうかは問題となります。以前は、見出し語として取り上げていない辞書も多く、一般的な語とは言えないと考えましたので、一続きにしていたのですが、今回ご質問をいただいたことで、改めて調査したところ、以前見出し語として取り上げていなかった辞典にも載っていました。

「料率」は保険会社などの業界ではよく使用され、物流関係でも、料率設定などと使用されるようです。業界用語が、次第に年金や税金などに絡んで一般的な場面でもよく使われるようになってきているということなのかもしれません。

辞書の変化も鑑みて、「料率」は自立する意味のまとまりととらえ直すこととしました。ホケン■リョーリツと語例集を変更します。

手数料率も、テスー■リョーリツと書いてよいと思います。

#### 5. p71 3. 2字以上の漢語 (3) [参考]

分かち書きのとき、意味のまとまりの目安を、辞典に掲載されているかどうかとしています。「観葉植物」の場合、「観葉」が辞典にないので、「カンヨーショクブツ」となるのか、それとも「カンヨー■ショクブツ」と分けるのでしょうか。

【A】

観葉植物は カンヨー■ショクブツと書きます。

「意味のまとまり」は辞書も目安になりますが、それだけではありません。

特に7拍以上の長い複合名詞では、続いているとどこまでが一つのまとまりかを判断しながら読むことが大変になります。点字は前から経時的に読んでいきますので、意味のまとまりがあるところで区切った方が分かりやすくなります。

冠婚葬祭、起承転結なども、「冠婚」「起承」だけでは辞書に載っていませんが、前から読んだときに、意味のまとまりが分かりやすいところで、区切って書くことになっています。ただし、その場合も、後ろの語にも意味のまとまりがないと区切ることはできません。

#### 6. p71 4. 漢字1字ずつが対等な関係で並んでいる語

「てびき」では生老病死は生■老■病■死と1語ごとに切り、花鳥風月は花鳥■風月で、春夏秋冬は一続きとなっております。語句のまとまりや発音などを考慮するとありますが判断の基準がよく分かりません。

仏画の色彩「紺丹緑紫」の切れ続きはどのようにすればよいのでしょうか？

##### 【A】

「紺丹緑紫」は、仏像彩色の技法で、「青には赤、緑には紫という意味で色の対比を表し、青と赤、緑と紫を美しく対比させる配色方法で、寒色と暖色、光と影、色の対比によって奥行が生まれ、お互いを引き立たせる色使いの方法」とありました。紺丹と緑紫にまとまりがあると思われまますので、コンタン■リョクシと書いてよいと思います。

「てびき」p71 4. は判断に迷う語も多くありますが、意味のまとまりと発音などを考慮して決めることになります。

「花鳥風月」は「花鳥」だけ「風月」だけで用いられることも多く、多くの辞書にも2字ずつの形で見出し語になっていますので、意味のまとまりと考えることができます。「春夏秋冬」は2字ずつ用いることは少なく対等な4字と捉えられますが、音読みの場合、漢字1字ずつ切り離すとそれぞれが同音異義語の多い短い漢語となり分かりにくくなります。単独で称する場合はシュンでなくハル、力でなくナツと和語を用いるのが一般的ですので、シュンカシュートーは続けて書きます。

「生老病死」は、「生ある者」「死をみつめる」などと単独の音読みでも用いる言葉で、「老人」「病氣」のように音読みで使われる例を類推しやすい語でもあります。漢字1字ずつに苦しみの概念を代表させた仏教用語でそれぞれのイメージが音読みした単独の語からでも読み取れますので、区切って書くことにしています。

### 3 複合動詞・複合形容詞など

#### 1. p77 2. 「する」

次の「して」の切れ続きはどうなりますか。

1. 兄弟たちは一人減り、二人減りして、残ったのは・・・。
2. エスカレーターを昇っていつては下り、下っては昇りして・・・。

文法的に説明してください。

【A】

1. 2. とも動詞「する」の活用形と考えて、区切って書いてよいと思います。

1. 兄弟たちは、(一人減り、二人減り＝減少) する

2. エスカレーターを(昇って行っては下り、下っては昇り＝昇り下り) する

カッコ内が長いのですが、1. は、減少という現象が起こっている、2. は昇り下りの行為をすると判断でき、ここに「する」がないと、「兄弟たちが」「エスカレーターを」を受ける動詞がなくなります。

## 2. p78 2. 「する」【備考2】

語例集の「親に敵する」は、なぜ「テキ■スル」と切るのですか。

【A】

「敵する」は、「敵として抵抗する、敵対する」意味で、「敵」に広い意味を持たせた表現になります。「親に敵(敵対・抵抗)をする」という意味ですので、区切って書きます。

また、【備考2】には書いてありませんが、「～しない・～さない」の両方が可能な場合に続けて書きます。

愛する、愛さない、愛しない

反する、反さない、反しない

「得する、得する」などは、「得しない、得しない」とは言いますが、「得さない・得さない」とは言いません。「敵する」も「敵さない」とはいいません。

「適さない」は言いますが。

ですから、

親に敵する オヤニ■テキ■スル

年齢に適する服装 ネンレイニ■テキスル■フクソー

となります。

## 4 その他の注意すべき切れ続き

### 1. p82 3. 慣用句

語例に「ニタモノ■ドーシ」「ニタモノ■フーフ」「ヨク■ニタ■モノ■ドーシ」があります。「ヨク■ニタ■モノ■ドーシ」はわかりますし、「ニタモノ■フーフ」も何となくわかるのですが、「ニタモノ■ドーシ」の「ニタモノ」がなぜ一語なのかがわかりません。

「似た」が2拍だからというのなら「ナカノ■イイ■モノ■ドーシ」も「イイモノ」

になりませんか。「ああ、似た者三人が揃い踏みだな」という文においても「似た者」は一語になりますか。「会社の花瓶を割ってしまったので似た物を買って弁償した」の場合は「ニタ■モノ」ですよね。

なぜ「似た者同士」の「ニタモノ」が一語なのかの理由と、「似たもの」を続ける場合と切る場合の違い、また「似た」以外にもこのような場合があるのであればそれも合わせて教えていただきたいです。

【A】

「似た物夫婦」「似たもの同士」は、「てびき」p82 3. 慣用句にあてはまると判断して点訳では慣習的に続けて書かれています。

慣用句ですので、その言い回しの時だけ続けて書きます。「旨いもの食い」「その日暮らし」など続けて書くからと言って、いつも「うまいもの」「その日」が続くわけではありません。

「ああ、似た者三人が揃い踏みだな」の場合は「ニタ■モノ」となります。

### その3 固有名詞

#### 1 人名

##### 1. p88 2. 敬称・官位など

『紫式部と藤原道長』（倉本一宏著）の中に位や役職名が数多く出てきます。

①備中権守、②右兵衛権佐、③右衛門権佐、④太宰権帥、⑤令外官、⑥近衛将、⑦越後弁の切れ続きを教えてください。

語例集に「権の守」「右衛門佐」「太宰の■権の■帥」「令外官 リョーゲノ■カン」

「越後弁殿」などの語例はありますが、「権、守、佐、帥、官、将、弁」は同じ漢字1文字です。違いをどのように考えればいいのでしょうか。

【A】

平安時代の役人の官位（四等官）は、かみ（頭、督、守）、すけ（助、佐、介）、じょう（允、尉、掾）、さかん（属、志、目）で表しますので、一般に官位としては前を区切って書いてよいと思いますが、ただ、役職名と合わせて略して呼ばれることも多く、規則として表すのは、むずかしいところです。

①備中権守、②右兵衛権佐、③右衛門権佐、④太宰権帥の「権」は臨時の官職で「仮に置かれた」というような意味ですので、ゴンノカミ、ゴンノスケと続けて書いてよいと思います。②右兵衛権佐は右兵衛府という役所の権佐、③右衛門権佐は、右衛門府という役所の権佐ということになります。④「太宰権帥」は、帥（そつ、そち）が太宰府だけの長官名で、太宰府の臨時の長官という意味ですので、ダザイノ■ゴンノ■ソツとなります。



⑤令外官は、正式に定められた以外の官職すべてをまとめてあらわし、具体的な官位・官職を示しているわけではありません。大宝令、養老令の外の官職・役所のことですので、リョーゲノ■カンとなります。

⑥近衛将は、近衛府の将(大将か中将)ですので、コノエノ■ショーとなります。

⑦越後弁は、大式三位(紫式部の娘)を指す通称ですので、続けて書きます。「弁」は、近衛府の事務を司る役所・事務官をさしますので「頭の弁」などは続けて書いてよいと思います。

語例集の右衛門佐殿(うえもんのすけどの)は、右衛門佐局といわれた大奥の女中を指し、官位官職とは直接関係ありません。

## 2. p89 2. 敬称・官位など 【備考2】

「五木寛之編」の解釈として「イツキ■ヒロユキヘン」は個人の説明としてとらえ、「イツキ■ヒロユキ■ヘン」は五木さんが編集したものと考えてよいのでしょうか。例えば、「内閣情報局編」は「ナイカク■ジョーホーキョク■ヘン」として内閣情報局が編集したものとして考えてよいですか。

〇〇会社編「20周年記念誌」とか、市史編纂委員会編「記念誌」とかの「編」のマスあけを教えてください。

### 【A】

編集した人・団体を示す場合は、「編」の前をあけます。

その本全体の内、ある人物(団体、内容)のことを書いた部分を表す場合は、前に続けて書きます。

「内閣情報局」が編集した資料・書籍の場合は「ナイカク■ジョーホーキョク■ヘン」となります。

たとえば、「日本政治の歴史 内閣情報編」のようにタイトルの中にある場合は、続けて書きます。

〇〇会社■編「20周年記念誌」、  
市史■編纂■委員会■編「記念誌」  
となります。

## 3. p90 3. 「さん」「様」「君」「殿」「氏(し・うじ)」【備考1】

長編歴史時代小説『「鷹の城」定廻り同心新九郎、時を越える』を点訳しました。校正で、登場人物の役職名の後の殿、様はマスアケしないで続けると指摘がありました。例えば杉浦兵庫、畠山刑部、山内主膳、湯上谷左馬助です。以上は役職名と判断して殿、様は続けてよいのでしょうか。

次郎左衛門や助右エ門は、どうでしょうか。左衛門は役職名です。右衛門も役職名ですが右エ門となったら役職名ではないのでしょうか。

## 【A】

兵庫は、武器を管理していた役人、刑部は司法全般の管理をする役人、主膳は宮中の食膳を司った職、左馬助は左馬寮で馬の飼育・調教などに当たった役職の次官ですので、すべて役職名になります。

この後ろに、殿、様が続く場合は、マスあけせずに続けて書きます。

左衛門府の長官である左衛門督（さえもんのかみ）や 右衛門佐（うえもんのすけ）、左衛門尉（さえもんのじょう）などは役職ですので、それに様や殿がついたら続けて書きます。ただ、名前の一部として中村与右衛門、次郎左衛門や助右エ門などと用いられている場合は人名になりますので、「様」「殿」などの前は区切って書きます。

## 2 地名

### 1. p92 1. 地名 【処理2】

「てびき」p92【処理2】段階の内部で、後ろに「東・西・南・北・中」などが付く場合は、自立した意味のまとまりとして、区切って書く。

とありますが、北1条西2丁目、南19条西15、南町西3区、東7条北8丁目などはどこまでが段階になるのでしょうか

## 【A】

ここで言っている段階は、国、県、市区町村、字（大字、小字）、丁目、番地のような、一般的な（常識的な）段階を指しています。

丁目、番地などは数字の前で区切ることにありますが、

北海道の多くの市の住所標示は、○区○条○丁目○番地○、○区○条○丁目×番△号のように、丁目の上に「条」という段階があり、それが札幌市では南・北、帯広市では東・北と共に用いられていますので、キタ数1ジョーと続けて書いた方がよいと思います。なお、ミナミ、ヒガシは3拍ですので、同じ段階の内部でも区切って書きます。

北1条西2丁目 ⇒ キタ数1ジョー■ニシ■数2チョーメ

南19条西15 ⇒ ミナミ■数19ジョー■ニシ■数15

南町西3区 ⇒ ミナミマチ■ニシ■数3ク

東7条北8丁目 ⇒ ヒガシ■数7ジョー■キタ■数8チョーメ

### 2. p92 1. 地名 【処理3】

地名「バーハーバー」（Bar Harbor バー・ハーバー）は、アメリカ・メイン州南東部のすぐ沖合に浮かぶマウントデザート島にある港町、リゾートタウンで

す。3拍以上の意味のまとまりが二つ以上ありませんので続けて書くと考えてよいでしょうか。普通名詞部分「ハーバー」が4拍あります。

「ノッティング■ヒル」(N o t t i n g H i l l)は、ロンドン西部の一地区。観光地ようです。「坂の上には大きな家が立ち並び・・・ヒルというだけあって坂道。丘の上に・・・」という旅行記がありました。普通名詞部分が「ヒル」2拍ですので区切って書くのでしょうか。

語例集に「ベシティ」(地名、ミシガン州)や「ラン■ヒル」(自然名、タイ南部の小高い丘、RangHill)がありますが、違いがよく分かりません。

#### 【A】

地名と自然名のマスあけの違いを考慮することになると思います。

地名は、3拍以上の意味のまとまりが二つ以上ある場合に区切って書きます。

自然名は、固有名詞の固有の部分と普通名詞でできていますので、普通名詞が日本語なら3拍以上、外来語なら2拍以上で区切って書くことになります。

バーハーバーはアメリカメイン州にある町の名前で、地名になりますので、バーハーバーと続けて書きます。

ノッティングヒルも、丘の名前ではなく、ロンドンの地域名ですので、一続きに書きます。

語例集にある、ビーコン■ヒルやラン■ヒルは注記に「自然名」とありますように、地名ではなく自然名(丘の名前)ですので、「ヒル」の前で区切って書きます。

地名か自然名かは判断が難しいこともありますが、原文で何を指しているかによって判断することになります。

### 3 その他の固有名詞

#### 1. p94 1. その他の固有名詞

『仙台銘菓 萩の月』は、「ハギノツキ」「ハギノ■ツキ」どちらでしょうか。区切って書く場合、「アジノモト」との違いは何ですか。

#### 【A】

萩の月はハギノ■ツキと、分かち書きの原則に従って区切って書いてよいと思います。

「萩の月」「柿の種」など連想されるイメージから名づけられた商品名は多いのですが、元の語と同じ書き方をします。固有の名称だから一続きに書くというルールではなく、てびき p94「その他の固有名詞」にありますように、複合名詞のルールに従いますので、助詞「の」の後ろでは区切って書きます。

それによって、「萩」や「月」の名所である土地のイメージが込められた銘菓であるなど、語の意味が適切に伝わります。

「味の素」は例外で、単に味（甘味・辛味・酸味など）の素（原料）を意味するわけではなく、グルタミン酸ナトリウムを主成分とする旨味調味料を指すことが浸透しており、塩・砂糖・胡椒などと同じような捉え方をされています。つまり「の」を含む全体で特定の意味を表しますので、「てびき」p63【備考】に該当すると考えられます。

「萩の月」の場合は元の語の意味合いを商品に託して命名していますので、元の語をそのまま伝えるのがよいわけですが、「味の素」の場合は元の語にはない特定の意味を生じていることから、区切って書くと伝わりにくくなると思います。

## 2. p96 「コラム22」

「台北」は「たいпей」「たいほく」のどちらで点訳したらよいのでしょうか。

【A】

「てびき」「コラム22」にあるように、中国の地名は漢字の音読みが一般的ですが、日本で定着している場合は原音読みとなります。

日本で定着している中国の地名と言えば、ペキン、シャンハイ、ホンコンが代表的で、これらの地名を音読みすると不自然で理解できませんので、点訳でも原音読みにします。ですが、台北は、「たいほく」と読んで不自然ではありませんので、原則通りに「タイホク」と書いてよいと思います。

ただ、ルビが振ってある場合や前後の文脈で「タイペイ」と読む方が自然な場合は、「台北」のことと分かりますので、タイペイと読んでも間違いではないと思います。

## 3. p96 「コラム22」

韓国時代小説の翻訳版の点訳をしています。

登場人物の朝鮮王朝の王、王妃、側室の書き方や分かち書きのついての質問です。

・王妃キム氏、恵嬪ホン氏、宜嬪ソン氏、淑儀ムン氏の「氏」は区切るのでしょうか。

恵嬪（ヘビン）、宜嬪（ウィビン）の嬪、淑儀（スギ）は側室の階級を表しており、そのあとのソン氏、ホン氏、キム氏は父方の苗字に氏がついていると考えるのか、一族の氏と考えるのかで迷っています。

・世子（セジャ）は王位を継ぐ者の尊称ですが、莊獻世子（チャンホンセジャ）、思悼世子（サドセジャ）は「セジャ」は2拍なので続けて書きますか。

・基本的に漢字表記の朝鮮語にはカタカナのルビがあります。

漢字から意味が推測できるものは、6拍以上はカタカナ語のまとまりで区切っていますが、漢字4文字で、漢字2字ルビのカタカナ5拍以下のときは続けるのでしょうか？

左承旨（チャスンジ）、同副承旨（トンプスンジ）、右副承旨（ウプスンジ）など承旨は秘書の意です。トンプ■スンジ、ウプスンジでいいでしょうか。

#### 【A】

1. 韓国・中国の古い小説や時代物では女性の個人名が書かれることは稀で、たいてい〇〇氏と一族名で呼ばれます。人名に敬称を付けたものとは異なり、一族名と考えて続けた方がよいと思います。男性の登場人物には敬称がついておらず、「その妻〇〇氏」のように書かれる場合も多いので、敬称として扱うと、周りの人物とのバランス上、違和感が生じます。

キムシ、ホンシとなります。

2. セジャは通常耳なれない韓国語の尊称ですので、人名を明らかにする意味でも、チョンホン■セジャ、サド■セジャ と区切るのがよいと思います。

3. 外来語のルールは基本的に漢字の無い西欧語が対象ですので、中国語や朝鮮語は、ルールをそのまま当てはめるのはできないと思います。

漢字から語の成り立ちを判断することになりますが、ご質問の語は、「承旨」に階級差を表す左、右、同、副などの語が冠されているようです。

左（チャ）右（ウ）は2拍以下なので左承旨（チャスンジ）、右承旨（ウスンジ）は一続きになります。

同副承旨・右副承旨は「小中学校」と同じように、同も副も、右も副も承旨にかかるので、トンプスンジ・ウプスンジと一続きに書くことになります。

もしもルビのない職名などが出てくると漢字を音読みして点訳することになりますので、2字以上の漢語の切れ続きの判断に従って判断するのがよいと思います。

チャスンジ、ウスンジ、トンプスンジ、ウプスンジ

## その4 方言・古文など

### 1. p97 1. 方言の分かち書き

鹿児島弁です。

「話を続けたもんせ」

「どうぞ続けてたもんせ」

「わっぜだれた」（疲れたという意味らしい）

「きばいやんせ」

「おいにまかせちょけ」

「はらけおっと」（腹が立っている）

「ちょっしもた」（しまったと思った時）

以上はどこで切ったらいいでしょうか。

【A】

- ・話を続けったもんせ ⇒ ハナシヲ■ツツケッタモンセ
- ・どうぞ続けてたもんせ ⇒ ドーゾ■ツツケテ■タモンセ

鹿児島弁で「たもんせ」は「賜る」を意味する補助動詞になります。

「続けったもんせ」は「続けてたもんせ」の音韻変化したもので、促音化していますので、続けて書くことになりますが、「続けて」の場合は、補助動詞の前で区切った方がよいと思います。

- ・わっぜだれた ⇒ ワッセ■ダレタ

「わっぜ」は「大変、すごく、チョー」の意、「だれた」は「疲れた、だるい」の意味になります。

- ・きばいやんせ ⇒ キバイヤンセ

「きばれ」は「頑張れ」の意。

- ・おいにまかせちょけ ⇒ オイニ■マカセチョケ

- ・はらけおっと ⇒ ハラケオット

腹が立つことを「はらかく」とか、腹を立てていた、ということ「はらけちよった」と言うようですので、「はらけ居る」という複合動詞ではないでしょうか。

- ・ちょっしもた ⇒ チョッ■シモタ

## 2. p97 2. 古文・漢文の分かち書き

明治の新政府が箱館府に送った通達の一文です。

「残賊共召捕るべし。手余り候わば討ち殺し候も苦しからず候」

「手余る」という動詞はないので、「テ■アマリソーラワバ■」、「ウチコロシソーロー」、「クルシカラズ■ソーロー」としました。これでよいでしょうか。

「候」は独立の動詞や「く」「て」が来て補助動詞のときは、区切る。動詞の連用形に続くときは続けるとフォーラムの回答があり、理解しました。

しかし、フォーラムの語例にある「申さず■候」、「これ■有り■候」の区切る理由がわかりません。どちらも「候」の前の動詞が連用形と終止形が同じ形なので区別がつかないのですが、「申さず」「有り」は連用形ではないのでしょうか。

【A】

「テ■アマリソーラワバ■」、「ウチコロシソーロー」、「クルシカラズ■ソーロー」は、お考えの通りのマスあけになります。

「申さず候」は、「申す」の未然形「申さ」に、助動詞の「ず」が付いた形ですので、モーサズ■ソーローとなります。「苦しからず候」も「苦し」の未然形「苦しから」に助動詞の「ず」が付いた形ですので、同じです。

「コレ■アリ■ソーロー」は漢文の「有之候」に由来する表現で、漢文の「之」は「有」の目的語にあたり、日本語では読む必要がなかったものを後世の訓読で読むことが習慣化されたもののようです。日本語の語順にあてはめたために「有」と「候」が接していますが、元の漢文ではその間に「之」を挟む表現ですので、間をマスあけします。

### 3. p97 2. 古文・漢文の分かち書き

「香子 紫式部2部」を点訳しています。

#### 1. 誰により世をうみやまに行きめぐり

絶えぬ涙に浮き沈む身で

上の歌の解説に《私は一体、誰のために、辛い・・・「海」に憂（う）みを掛けていて、・・・》とあります。

#### 2. 海松や時ぞともなき蔭にいて

何のあやめもいかにわくらん

上の歌の解説に《姫君はいつもひっそりと海辺で暮らし、今日が五十日の祝日で、菖蒲の節句の日であるのをわかっているだろうか、という言祝ぎで、「海松」は姫君を指し、「あやめ」に菖蒲と文目（あやめ）、「いか」に五十日を掛けており、・・・》とあります。

どのように点訳すればよいでしょうか。

【A】

1. 2. とともに、二つの意味をかけた和歌ですが、「てびき」p220 5. にあるとおり、一通りのみの分かち書きで書きます。

#### 1.

■■タレニ■ヨリ■ヨヲ■ウミヤマニ■ユキメグリ

■■■■タエヌ■ナミダニ■ウキシズム■ミデ

と点訳し、解説のところで「ウミ」ニ■「ウミ」（クルシミ）ヲ■カケ

#### 2.

■■ウミマツヤ■トキゾトモ■ナキ■カゲニ■イテ

■■■■ナニノ■アヤメモ■イカニ■ワクラン

と点訳し、解説のところで

ウミマツワ■ヒメギミヲ■サシ、■「アヤメ」ニ■アヤメ（ショクブツ）ト■アヤメ（モノゴトノ■スジミチ）、■「イカ」ニ■イカ（数50ニチ）ヲ■カケテ■オリ、  
■・・・

と書いてはどうでしょうか。

#### 4. p97 2. 古文・漢文の分かち書き

古文を現代文の仮名遣いで点訳する場合、古語の動詞である「ものいふ」「ころす」「日並ぶ（ひならぶ・けならぶ）」などの切れ続きはどうなりますか。

枕詞「そらみつ」は「そらにみつ」からできているので、これも「そら■みつ」としてよいのか続けるべきなのか迷いました。

【A】

「ものいふ」は古語では、「口をきく、しゃれたことをいう、夫婦・恋人の関係になる」などの意味ですが、現代語では、「物言う」だけでそのような意味は無く、ことばそのまま「物を言う」意味です。「モノ■イウ■カブヌシ」のようになります。

ですので、「むかしものいひける女に」（伊勢物語）を現代文で書いた場合は「ムカシ■モノイイケル■オンナニ」となります。

「日並ぶ」は、古語的な表現で、現代語にはありませんので、古文での複合動詞の切れ続きに準じることになります。「馬ないたく打ちてな行きそけならべて〜」（万葉集）の場合は「ケナラベテ」と続けて書きます。

「ころす」は古語でも現代語でもほぼ同じ意味で用いられていますので、古文を現代語で書き表すときには、「ココロ■ス」「ココロ■シテ」になると思います。

枕詞は現代でも用いられていますので、ほぼ現代に置き換えた分かち書きになると思いますが、「そらみつ」は、短いですし、一語としてのつながりが強いとして、現代でも続けて書くと思いますが、同じ「大和」に掛かる枕詞でも「そらにみつ」は間に助詞がはいり区切って書いた方が分かりやすいと思います。

ソラニ■ミツ■ヤマトヲ■オキテ（人麻呂）

ソラミツ■ヤマトノ■クニワ■オシナベテ（万葉集）

以上のように、古語だけにある表現や、現代とはまったく異なる意味で用いられている場合には、古文の表現を活かして切れ続きを考えるのがよいと思いますが、働きの同じ場合には、現代文の分かち書き、切れ続きで書くのがよいと思います。

「てびき」p211にあるように「分かち書きは現代文と同様に文の単位ごとにおこなうことを原則とする。文語文法の体系を踏まえ、時代による用法の変化や現代語にはない語法にも注意する必要がある。自立語の中の長い複合語や固有名詞も、現代文と同様に意味のまとまりごとに区切って書く」ことになります。

#### 5. p97 2. 古文・漢文の分かち書き

「をんごく」という本を点訳しています。文中に物の怪のようなものが、死んで成仏できていない霊を追い払うために呪文のようなセリフを唱えます。

「カタシハヤエガセセクリニカメルサケテエヒアシエヒワレエヒニケリ」という呪文のようなセリフです。どこで切ったらよいでしょうか。

【A】



「カタシハヤエガセセクリニカメルサケテエヒアシエヒワレエヒニケリ」は、この呪文をとええと、百鬼夜行の害を避けられると鎌倉時代以前から言われていたものようです。

「カタシハヤ、エガセセクリニ、カメルサケ、テエヒ、アシエヒ、ワレエヒニケリ」で、資料によって少しの違いはあるようですが、「難しはや 行か瀬 庫裏に貯める 酒、手酔い足酔い我し来にけり」となるようです。中で少し異なる部分もありますが、「カタシハヤ■エガセセ■クリニ■カメル■サケ■テエヒ■アシエヒ■ワレ■エヒニケリ」と書くとよいのではないのでしょうか。

## 6. p97 2. 古文・漢文の分かち書き

「柚子の香につつまれて」の中に次の文があります。  
現代仮名遣いで点訳するとどのようなになるのでしょうか。カッコ内はルビです。

「・・・朕は拙（つたな）く劣ぢな（おぢな）けれども、親王等を初めて、王等臣等の相共（あな）なひ奉り、相扶（たす）け奉らむ事に依りてし、・・・國の天の下の政は、平（たいら）けく安く奉へ仕るべしとなも所念（おもほ）し行す。・・・」

【A】

チンワ■ツタナク■オジナケレドモ、■シンノーラヲ■ハジメテ、■オーラ■シンラノ■アイアナナイマツリ、■アイタスケマツラン■コトニ■ヨリテシ、クニノ■アメノシタノ■マツリゴトワ、■タイラケク■ヤスク■タテマツラエツカマツルベシトナモ■オモオシギョーズ。

以上のようになると思います。辞書によっては少し異なる表記もあるかもしれません。

## 7. p97 2. 古文・漢文の分かち書き

原本に、「参考」として、郭璞（かくはく）という人の「郭璞江賦」の書き出し「咨五才之竝用寔水徳之靈長」という文が出ています。調べたのですが、書き下し文も見つからず、漢字を一文字ずつ提示するしかないのでしょうか。その時の漢字の説明はどのようにしたらよろしいのでしょうか。

【A】

「郭璞江賦（カク■ハク■コーフ）」は長江を中心に中国江南の風景を読んだ詩のようです。

正確な読み下しは分からないのですが、この漢詩を現代語訳している中国語のサイト [https://so.gushiwen.cn/mingju/juv\\_135bc4540109.aspx](https://so.gushiwen.cn/mingju/juv_135bc4540109.aspx) などを参考にすると、およその意味は

ああ、五才（天地の金・木・水・火・地）それぞれ有用であり  
中でもまことに水の美德は最も優れた霊妙な力を備えている

というような感じで、川の水の霊力を賛美する内容と思われます。

最初の「咨」は「はかる（諮と同義）」の意もありますが、「ああ」という感動詞としても使われるようです。

「竝」は「並」と同義です。

「寔」は「実」「宴」など、別の字とする説もあり、上記サイトでは「実」で記載されていますが、「寔」でも漢和辞典によると「まことに」と読むことができますので、「実」と共通の意味を持つようです。

これらを踏まえて、以下のように読み下すと、だいたいの雰囲気は伝わるのではないかと思います。

アア■数5サイ■コレ■ナラビテ■モチウ■■■  
マコトニ■スイトクノ■レイチョーナリ

## 8. p97 2. 古文・漢文の分かち書き

井上靖著の『敦煌』に出てくる以下の漢文は、どのように書いたらよいでしょうか。

維持景祐二年乙亥十二月十三日 大宋国潭州府举人趙行徳 流歴河西 適寓沙州  
今縁外賊掩襲 国土擾乱 大雲寺比丘等搬移聖教於莫高靈窟 而罽蔵壁中 於是発心敬写般若波羅蜜多心経一卷 安置洞内已  
伏願竜天八部 長為護助 城隍安泰 百姓康寧 次願甘州小娘子 承此善因 不溺幽冥 現世業障 並皆消滅 獲福無量 永充供養

### 【A】

この小説の主人公・趙行徳が経典を莫高窟へ収めた経緯などを書きつけた文書として出てくる漢文ですね。

細かいところは読み下し方も人によって異なると思いますが、大体以下のようなのではないかと思います。

「乙亥」は和語では「キノト■イ」ですが、中国が舞台であることから、イツガイと読んでいます。

イジ■ケイユー■2ネン■イツガイ■12ガツ■13ニチ■  
ダイソーコク■タンシューフ■キョジン■チョー■ギョートク■  
カセイヲ■ルレキ■シ■サシューニ■テキゲー■シ■イマ■ガイゾク■  
エンシュウ■コクト■ジョーランニ■ヨリ■ダイウンジ■  
ビクラ■セイキョーヲ■バツコー■レイクツニ■ハコビウツシ■

シコーシテ■ヘキチューニ■シマイイレ■ココニ■オイテ■  
ホッシン■シ■ハンニャ■ハラミタ■シンギョー■1カンヲ■  
ウヤマイウツシ■ドーナニ■アンチ■シオエヌ  
フクガン■リ्यूテン■8ブ■ナガク■ゴジョヲ■ナシ■  
ジョーコー■アンタイ■ハクショー■コーネイ■ツギニ■  
ネガウ■カンシュー■ショージョーシ■コノ■ゼンインヲ■ウケ■  
ユーメイニ■オボレズ■ゲンセ■ゴーショー■ナラビテ■ミナ■  
ショーメツ■シ■フクヲ■エル■コト■ムリョーニシテ■ナガク■  
クヨーヲ■ミツルヲ

経典を収めた経緯の後には、写経の功德により町も民も安らかで災厄に悩まされず平穩であるようにとの願いが記された文のようです。

## 9. p97 2. 古文・漢文の分かち書き

漢文の書き方についてお尋ねいたします。

『鵲冠子（かつかんし）・世賢第16』の扁鵲三兄弟的故事の

「若扁鵲者、鑱血脈、投毒藥、副肌膚、聞而名出聞於諸侯」を引用したかと思われる。

という文があります。

「若扁鵲者～聞而名出聞於諸侯」はどのように書いたらよいでしょうか？

パソコンで調べますと原文は沢山出て来ますが、読み方、書下し文等は見つけられませんでした。どのように調べたらよいでしょうか。

### 【A】

扁鵲（ヘンジャク）は中国春秋戦国時代の伝説的な名医で、兄二人も医者だったとことです。引用されている漢文は、魏の文王に、兄弟で誰が一番名医であるか尋ねられたのに対して、扁鵲自身が答えた言葉とされています。

ネット上に書き下し文が見当たりませんが、中国語のサイトには現代語訳とともに掲載されているケースがいくつかありましたので、現代語訳を参考に意味を確認しながら読み下すと、だいたい以下になるのではないかと思います。

若扁鵲者、鑱血脈、投毒藥、副肌膚間、而名出聞於諸侯。

ヘンジャクノゴトキ■モノ、■ケツミヤクヲ■サシ、■  
ドクヤクヲ■トージ、■ヒフノ■カンニ■ソエ、■  
シカシテ■ショコーニ■オイテ■ナ■イデキコユ。

「血脈」の前、テキストデータでは文字化けしてしまう画数の多い漢字は鍼灸治療の鍼を刺すことを意味するようです。

「投毒藥」は激烈な藥を投与する

「副皮膚間」は皮膚に軟膏を用いる

「而名出聞於諸侯」はそれによって、諸侯の間に名が広まっている、というような意味のようです。

## 10. p97 2. 古文・漢文の分かち書き

お経の書き方について

念仏を唱える場合は続けるとありますが、まさに読経の場面です。

南無喝囉怛那哆羅夜耶 南無阿唎耶 婆盧羯帝 爍鉗囉耶 菩提薩埵婆耶  
摩訶薩埵婆耶 摩訶迦盧尼迦耶 唵 薩皤囉罰曳 數怛那怛寫

に、以下のようなルビがあります。スペースのところでマスあけて点訳してよいでしょうか。

なむからたんのーとらやーやー■なむおりやー■ぼりよきちー■しふらやー■ふ  
じさとぼやー■もこさとぼやー■もこきゃるにきゃやー■えん■さはらはえい■し  
ゅーたんのー

【A】

「大悲心陀羅尼」というお経で、YouTube で聞いてみると単調に謳うように唱えられていましたので、読まれているリズムで区切って書いてよいと思います。

また伸ばすところは、資料によって異なりましたので、ルビがある場合は、ルビに従って長音を用いてよいと思います。

南無喝囉怛那哆羅夜耶 南無阿唎耶  
婆盧羯帝爍鉗囉耶 菩提薩埵婆耶  
摩訶薩埵婆耶 摩訶迦盧尼迦耶 唵  
薩皤囉罰曳 數怛那怛寫

ナムカラタンノー■トラヤーヤー■ナムオリヤー■  
ボリョキチー■シフラーヤー■フジサトボヤー■  
モコサトボヤー■モコキヤルニキャヤー■エン■  
サハラハエイ■シュタノントンシャー

## 11. p97 2. 古文・漢文の分かち書き

現在点訳している原本中に以下の漢詩があり、ルビが付いています。

一口為断一切悪（いっくいだんいっさいあく）

二口為修一切善（にくいしゅういっさいぜん）

三口為度諸衆生（さんくいどしよしゅじょう）

皆共成仏道（かいぐじょうぶつどう）

点訳は、 数1ク■イダン■イッサイ■アク

数2ク■イシュー■イッサイ■ゼン

数3ク■イド■ショシュジョー

カイグ■ジョーブツドー

としましたが、これでいいでしょうか。

【A】

一口為断一切悪

二口為修一切善

三口為度諸衆生

皆共成仏道

は、漢詩ではなく、「三匙の偈」という禅門のお経のようです。ルビが振ってある部分は、

数1ク■イ■ダン■イッサイ■アク

数2ク■イ■シュー■イッサイ■ゼン

数3ク■イ■ド■ショシュジョー

カイ■グ■ジョーブツドー

となりますが、この後ろに書き下し文がないと意味は通じないと思います。（「てびき」p24（9）参照）

ネット上で調べてみると

一口為断一切悪（一口食べては一切の悪行を断ち）

二口為修一切善（二口食べては一切の善行をなし）

三口為度諸衆生（三口食べてはすべての生きとし生けるものを救い）

皆共成仏道（そして皆がともに仏道に目覚めることをつとめよう）

以上のような意味とのことでした。

このことが、本文に書いてあればルビを書くだけでよいのですが、説明がなく、本文を読み進むのに必要であれば、上記の書き下し文も点訳するのが良いと思います。

ヒトクチニテ■イッサイノ■アクヲ■タツ■コトヲ■ナシ

フタクチニテ■イッサイノ■ゼンヲ■オサムル■コトヲ■ナシ

ミククチニテ■モロモロノ■シュジョーヲ■ドスル■コトヲ■ナシ

ミナ■トモニ■ブツドーヲ■ナサン

のようになると思います。